

**製品名: MLH1 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM82443**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	84.6kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MLH1
別名	FCC2; COCA2; HNPCC; hMLH1; HNPCC2
遺伝子 ID	4292.0
SwissProt ID	P40692
免疫原	大腸菌で発現したヒト MLH1 (AA:381-483) の精製された組み換え断片。

**背景**

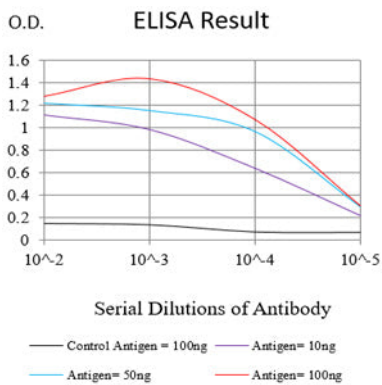
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ミスマッチ修復エンドヌクレアーゼ PMS2 とヘテロ二量体を形成し、DNA ミスマッチ修復系の一部である MutL $\alpha$  を形成する。MutL $\alpha$  が MutS $\beta$  およびいくつかの補助タンパク質と結合すると、MutL $\alpha$  の PMS2 サブ

ユニットが DNA ミスマッチ近傍に一本鎖切断を誘導し、エキソヌクレアーゼによる分解の入り口となる。この遺伝子によってコードされるタンパク質は DNA 損傷シグナル伝達にも関与しており、DNA ミスマッチ修復タンパク質 MLH3 とヘテロ二量体を形成し、減数分裂に関与する MutLγ を形成する。この遺伝子は、遺伝性非ポリポーシス大腸癌（HNPCC）において高頻度に変異する遺伝子座として同定された。[RefSeq 提供、2017年8月]

## 研究分野

-

## 画像データ



黒線: コントロール抗原 (100 ng) 紫線: 抗原 (10 ng) 青線: 抗原 (50 ng) 赤線: 抗原 (100 ng)